各学校での目標（重点は○数字）・具体策	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
I 学校教育目標や学校経営の方針の設定状況				
① 学校経営の充実と創意と活力のある学校づくり ・学校経営の充実（マネジメント体制の確立） ・生きる力を育む特色ある教育課程の編成 ・活力ある教育活動の実施	A	○適宜時間割の工夫（5時間授業や4時間授業での対応）があり、気持ちの余裕をもって業務を行えた。 ○学期始めに4時間授業にしたことで、慌てずに共通理解をしながら進められた。 ○行事の管理がされているので、急な行事の日程変更などを相談しやすい。 ○校務分掌の掲示がされ、自分の校務分掌を再確認できた。また、他の先生方も確認できるので、誰に相談すればよいかわかるようになった。 ○行事が多くあり、終始忙しい一日が何日かあった。	・水曜日は研修や会議等が多く入ってくるため、毎週B日課にするとうい。 ・教育課程に影響のないところでの精選（集会を減らすなど） ・行事の精選	・長期休業明けに早く帰れるのは良い。学校に徐々に慣れるようにした。結果、休み明けの欠席は少なかった。
② 教職員の能力・資質の向上 ・校内組織としての校内研修体制の構築と研修内容の改善 ・教職員評価制度を活かした能力・資質や勤労意欲の向上 ・OJTを活用した同僚性をもった人材の育成	A	○教育課程に応じて必要な研修を位置付けたので、教育活動に活かすことができた。（QUなど） ○研修内容が以前より精選され、より濃く勉強になる研修内容が増えた。 ○校内研修が充実しているため、能力の向上につながっている。 ○学年後半は学力向上推進リーダーによるミニ研修など、日々の授業や学力向上につながるものが実施できた。 ○少しの時間でも、研修の報告の話を聞くことで学びがある。できれば、ゆっくり話を聞いて自分に生かせるようにしたい。	・日々の教員同士のコミュニケーションを大切に、多様な学びの機会とする。	
II 保護者や地域との連携に努める				
① HPや学校だより等を通して、保護者や地域に向け、きめ細かに情報提供し開かれた学校づくりに努める。 ・保護者・地域との連携・協働体制の構築 ・保護者・地域への情報発信と学校公開 ・「ふれあい学習」の推進	A	○廊下に地域連携のコーナーができ、ボランティアさんの名前や写真が掲示されたことで、改めて活動を振り返ったり、ボランティアさんの顔や名前を覚えたりすることができると考えられる。 ○学校のPRや情報公開は大切だが、PTAだよりは、発行の仕方など、徐々に負担を小さくする工夫をしてはと思う。	・PTAだよりは発行や公開の仕方を考える。	・HP離れが見られる。HPは見ようとしないと見られない。タブレットや連絡メール等でも紹介するとよい。 ・HPは子どもの日々の活動を見てもらうには1番良い。できるだけ更新して、学校としてもっとPRしていってほしい。 ・考え方を切り替える。HPも、少なくとも見てくれている人もいるという考え方もできる。
② 信頼され・地域とともにある学校づくり ・「家庭学習の約束」の啓発とアウトメディアデーの推進 ・地域素材・地域人材の積極的活用 ・地域学校協働活動の展開	A	○メディアの利用時間や家庭での読書など、大きな課題である。 ○コーディネーターが様々な方をアテンドしてくれるので、そんなこともできるのか！ということが多くあった。 ○地域の方の支援により、児童の活動の幅が広がった。花植えや清掃活動などにも協力をいただき、大変助かっている。 ○地域の人材を積極的に活用し、学校の環境整備などの仕事をしていただいたことにより、働き方改革にもつながっている。 ○地域人材の活用により、実際に授業等で専門的な指導をしてくれる方がいて助かっている。	・学校と家庭で連携して、学校の指導と家庭での実践の両輪で解決していかなければならない。 ・メディアの利用時間など、那珂川町の平均時間と本校と比較したデータなどを掲載した啓発資料を活用する。 ・親子活動の講師についての地域人材一覧を作成する。 ・児童が積極的に地域の方とコミュニケーションをとれるとよい。	・ゲームやスマホは大人も使いすぎている状況。スマホに縛られている。 ・メディアはこれからの生活に不可欠。使い方を身に付ける。社会に出ても必要なものなので、情報リテラシーも指導していく必要がある。 ・ボランティアさんの活動をPTAの皆さんにも知ってほしい。 ・保護者への周知や紹介、PRをし、PTA活動の中に地域ボランティアとの関わりを入れたい。 ・子どもたちはボランティアさんのことをよく知っていて、地域の方々とのつながりがあるのがよい。
③ ハッピースローププランの推進 ・こ・小・中連携による協力体制の充実 ・小1プロブレム・中1ギャップの解消	B	○こ小中の連携については、ハッピースローププランを受けた連携が丁寧に継続されていると思う。 ○馬頭小とのタグラグビーは、交流があり、とても良い機会だった。 ○馬頭小との交流学習が今年度実施され、中1ギャップの解消につながると考えられる。 ○タグラグビーのような活動がもっと増えればよいと思う。		
III 確かな学力の育成に努める				
① 個に応じた指導方法と評価の工夫・改善 ・学校課題研修の充実 ・特別支援教育との関連を図りながら進める	A	○ティーム・ティーチングなど、先生方が力を合わせて協力していると思う。 ○定期的に国語の記述問題を解かせたことで、条件に応じた文章の記述の仕方を意識付けることができた。 ○職員会議で学校課題を振り返り進捗を確かめ、次月の課題も確認できるのでよかった。	・今後も問題を替えて実施していきたい。	
② 基礎的基本的な内容の定着を図る家庭学習の推進 ・家庭と連携した家庭学習習慣の育成 ・家庭学習強調週間の活性化（家庭との連携強化）	B	○学力向上推進リーダーが自主学習のやり方を教えてくださったので、児童はそれを活かしてやるようになった。意味のある自主学習ができるようになってきている。 ○自主学習のやり方について指導してもらったことで、児童のやり方が変わってきた。 ○家庭学習の大切さについては、根気強く啓発していくことが大切である。	・年度当初に確認した自主学習メニューを再確認する。慣れてくるまでは、担任の方で今日の自主学習は〇〇をやってくるといように示す。ノートの使い方を各教科で確認する。授業と関連した復習ができるよう各教科でその都度話す。 ・学習に対する姿勢について協力を得られるよう、家庭に発信する。 ・自主学習の内容については個別に配慮していく。	・自主学習に何をやるのか悩む。 ・高学年になって、だんだん内容も難しくなっている。
IV 豊かな心の醸成に努める				
① 「道徳科」を要にした道徳教育の充実 ・道徳の時間の充実（授業公開と時間の確保） ・多面的・多角的に考える道徳科の授業の展開	B	○授業参観での道徳の授業公開を位置付けた。 ○多面的・多角的に考えを広げたり深めたりするための手立てとして、学習形態を工夫したり、登場人物の心情を視覚的に捉えるための構造的な板書を意識したりすることができた。 ○教材に合わせた掲示資料やワークシートを用意することで、自己を見つめ直したり、多面的・多角的に考えたりしている。		

		<p>○発言等に問い返しを行い、より深い考えを引き出している。</p> <p>○人数が少ないため、温かい雰囲気の中で、自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたり、考えを深め合っている。</p>		
<p>② 異学年交流・縦割り班活動での自尊感情の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 異学年交流、縦割り班活動の推進 あいさつ・返事・ありがとう（AHA運動）の推進 	A	<p>○AHA運動のテーマソングを作ったことで、よりAHA運動を意識するようになり、子どもたちに定着しつつある。</p> <p>○AHA運動の歌もできて、環境は整ってきた。朝の放送で、AHA運動の歌を流せるとよいと思うのでCDにしてほしい。</p> <p>○縦割り班活動や清掃など、異学年でも協力しながら仲良く活動している。</p> <p>○あいさつや返事の声はやや元気がない。いつでも、どこでも、誰にでも元気にあいさつができるようにしていきたい。</p> <p>○配膳室での片付け時のあいさつが疎かになっている児童も時々見られた。</p> <p>○登校時の外でのあいさつは大きいのが、校舎に入ってくると声が小さい。</p>	<p>・返事に関しては各学年でその都度指導する。</p> <p>あいさつは、元気よくあいさつできている子に「いいあいさつだね」「元気にあいさつされて嬉しいな。」などあいさつして良かったと思うような褒める声掛けを行う。</p> <p>・どの場所でもあいさつ等が徹底できるように再度確認する場面があるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつはがんばってほしいところ。個人差はあるだろうが、きちんとするようにさせてほしい。来校したときは、あいさつをしてくれている。 ・社会で生活するには大切。身に付けさせたい。 ・アンケートでも課題になっているので協力して指導していきたい。
<p>V 健やかな体の育成に努める</p>				
<p>① 教科体育・体育的活動の充実と共遊の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通した体力づくり運動の実施 外遊びの奨励 	A	<p>○マラソン週間など何か目的があれば外遊びを積極的にできた。体育でタグラグビーが始まればそれを休み時間にやるなど、目的があればできるように感じる。</p> <p>○マラソン大会に向け目標をもって体力づくりに取り組んだり、休み時間を使ってなわとびに挑戦したりする児童が見られる。目標となる行事があることで、それに向かってがんばることができた。</p> <p>○雨の日にも体力づくりが実施できるように、体育館用の体力づくりもあるとよい。</p> <p>○外に出ている児童が増えたように思う。</p> <p>○寒さのため、外遊びをしない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジランキングの種目やゲーム感覚で楽しめるものを実施する。(しっぽとり、フラフープダウン、ねことねずみ、フラフープリレーなど) ・マラソンカードの体力づくり版のようなものを作成し、意欲付けをする。 ・体育館でもできる体力づくりの競技を考える。 ・なわとびを冬だけでなく、年間を通してめあてカードがあれば取り組めるのではないか。(夏で暑い時期は無理だが…) ・運動委員会で長期的に「〇〇グランプリ」の計画を行っている。子ども主催で活動していこうとしている。子どもたちに目標を持たせて取り組む予定。 <p>4～7月・ボール投げ（遠投）・バトン系</p> <p>9～10月・竹馬</p> <p>10～11月・マラソン</p> <p>12月 ラグビー（パス）</p> <p>1～2月・縄跳び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改善策にあるように、工夫して体力づくりに取り組んでほしい。 ・友達の家が遠く、一緒に遊べない状況。外で遊ぶ習慣を身に付けさせたい。 ・季節に合う運動や遊びを進めていってほしい。 ・町の行事の中には体力づくりになるものもある。コミュニケーションを図ることもできる。
<p>② 健康教育の充実と安全指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防・対策 正しい姿勢の推進 う歯罹患率の減少 	B	<p>○町内学校で感染症が流行していたが、本校は流行しなかった。先生方の予防・対策がありがたい。</p> <p>○学校保健委員会で予防歯科を取り上げた。学校三師とPTAの協議ができた。</p> <p>○う歯の治療が済んでいない児童に対して歯磨き指導を行ったり、個人懇談で呼びかけたりしたことは効果的であった。冬休み前に治療勧告の通知を配布したのもよかった。</p> <p>○歯の治療のお願いについて、保健日より学校だよりも周知がなされていた。</p> <p>○歯科受診については、今後も呼び掛けていく必要がある。</p> <p>○ゲーム、スマホに触れることが多く、姿勢の悪さは気になる。(ストレートネックや視力の低下も) 「立腰」とまではいかなくても、馬頭小のような「チェック」と言って胸を張るような取り組みをするとよいと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・虫歯治療については各家庭に呼び掛ける。 ・治療勧告の通知について、う歯の危険性やう歯位置の分かる内容のプリントを作成する。 <p>・馬頭中の取組を確認し、連携することも検討する。烏山の学校や馬頭小のような掛け声を決めていきたい。</p> <p>・授業の始めに15分タイマーをセットして音で姿勢を直せるようにする。または、「姿勢」と伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・う歯を治療していない割合が高い状況にある。 ・歯科医院が近くになく、また、平日に通院できない状況もあるかもしれない。引き続き啓発していく。 <p>・姿勢を意識させる合言葉、言葉かけを学校で始めたので、家庭でも協力できるとよい。</p> <p>・大人ですら携帯等で影響が出ている。大人もしっかりしていかなければならない。</p>

特色ある学校づくりへの取り組み（総合的な学習の時間と結び付け、地域の特色を生かす取り組み）

- ・学年親子活動については、地域コーディネーターのご協力をいただいて、2月のPTAのときに次年度に実施できそうな、地域人材を生かした活動を一覧にして示せればと思う。次年度までに親子で考えておいてもらうこともでき、4月の学年始めPTAで決めやすいと思われる。
- ・行政区イベントでポッチャに参加してくれた児童がいた。学校で地域との関わりを大切にしてくれているので、地域行事に参加してくれる児童も増えた。簡単なルールなので楽しんでもらえた。(学校関係者評価)
- ・自治会もよく地域コーディネーターに協力いただいている。基本的にはすばらしい学校評価とみられる。(学校関係者評価)

働き方改革に向けた業務改善策

- ・環境整備、学習支援の地域連携